

平成26年11月7日(金)

# 盛岡タイムス 記事

## 生きかたと逝きかた

在宅医療連携  
チームもおか  
盛岡市民のための在  
宅医療公開講座・自分  
らしい「生きかた」逝  
きかた―はこのほど、  
盛岡市内のホテルで開  
かれた。在宅医療連携  
拠点事業所チームもり  
おかの主催。愛媛県松  
山市で在宅医療に取り  
組む医療法人ゆうの森  
理事長の永井康徳さん  
が、患者や家族の人生  
観・価値観を大事にし  
た家での看(み)とり

について講演した。

永井さんは、へき地  
医療での経験をもと  
に、2000年に愛媛  
県初の在宅医療専門の  
クリニック「たんぼほ  
クリニック」を開業。

在宅で終末期を過ごす  
患者や家族に寄り添  
い、その人本来の生き  
方に向き合う医療を目  
指してきた。

病院では、施せる治  
療があれば、とことん

するが、在宅医療では、  
まず患者にとって何が  
大事なのか考え、医師  
はそれをサポートする  
黒子に徹する。時には  
医師として「できるこ  
とをしない」選択も必  
要という。

例えば、患者の処理  
能力を超えた終末期の  
点滴はかえって体の負  
担になる。無理な点滴  
をやめれば、腹水やた  
んは、たまりにくくな  
り、患者も楽に過ごせ  
る。医療者がしなければ  
ならない処置が減れ  
ば、家族も安心して世

話ができて、家で過ごせ  
る患者も増える。

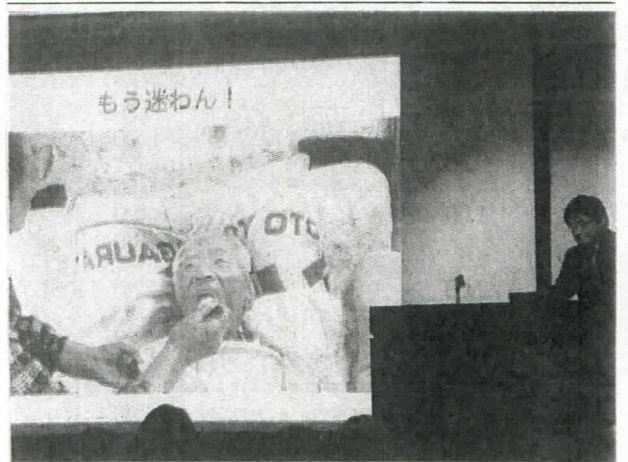
「楽なように、やり  
たいように、後悔しな  
いように」。「余命×  
満足度」こそ患者の幸  
せ」と語り、真の意味  
で患者や家族の気持ち  
に添った「支える医療」  
の重要性を説いた。

在宅医療の実践で大  
事なのは「利用者の不  
安をいかに取り除く  
か」。たんぼほクリニ  
ックは24時間365日  
対応。医師や看護師、  
薬剤師、介護職員らが  
チームを作って情報共

有し、患者が必要とし  
たときに、いつでも訪  
問できる体制をとって  
いる。一方で患者や家  
族にも「限られた命」  
であることを理解して  
もらい、状態がどう変  
化していくか、きちん  
と説明する。在宅医療  
チームと患者、家族と  
の信頼関係があつてこ  
そ、支える医療が実践  
できるからだ。高齢  
化が進む中で、社会の  
ニーズに応える在宅医  
療は、最先端の医療と  
も言える。

全身の筋肉が萎縮す  
る重病で最期が迫った  
患者が、仲間のサポー  
トで登山を楽しんだ記  
録映像なども紹介。「一  
人ひとりの人生が自分  
自身が主人公のドラ  
マ。住み慣れた場所で  
亡くなるまで自分らし

く生きる選択肢がある  
ことを知ってほしい。  
亡くなるまで、どう  
より良く、楽しく生き  
るかが大切」と力を込  
めた。



「亡くなるまで自分らしく」。医療法人ゆうの森の永井康徳理事長が講演し、在宅医療について考えた公開講座

く生きる選択肢がある  
ことを知ってほしい。  
亡くなるまで、どう  
より良く、楽しく生き  
るかが大切」と力を込  
めた。